

結核症の基礎知識（改訂第4版）

日本結核病学会教育委員会

「結核症の基礎知識」第4版改訂にあたって

日本結核病学会教育委員会は、1981年「結核症の基礎知識」を作成し、1988年「結核症の基礎知識」の改訂と「結核教育用スライド集」を作成し、1997年「結核症の基礎知識」と「結核教育用スライド集」の改訂を行った。これらは、医学生に対する結核症の教育に資する教材を意図されて作成され、学会としてその提供に努めてきた。前改訂から時間が経過したこと、また、わが国の少子・高齢化、グローバル化など社会や結核医療をめぐる環境の変化、医学・医療の進歩を受け、第4版改訂が計画された。前委員会の下で「結核症の基礎知識」について改訂作業が開始され、現委員会に引き継いで作業を進め、パブリックコメントを経て完成の運びとなった。本冊子は、これまでの結核症に関する歴史的医学知識についても備えておくべき知識が継承されるように留意されて作成されており、医学生の教育にたいへん有用であると考え、関係各位に広く利用いただければ幸いである。この改訂作業にご協力・ご尽力いただいた関係諸氏に深謝いたします。

2013年12月

日本結核病学会教育委員会

委員長	長谷川好規
前委員長	森下 宗彦
委員	飯沼 由嗣, 田坂 定智, 田中 栄作, 中川 拓, 柳原 克紀
前委員	大崎 能伸, 棟方 充, 長尾 啓一, 四元 秀毅, 中島 由槻 松岡 健, 川根 博司, 河野 茂, 藤村 政樹, 田口 修 矢野 修一, 田代 隆良, 新美 岳
特別委員	佐藤 秀明

(順不同)

— 目 次 —

I. 結核症の発生病理

1. 結核菌
 - 1) 結核菌の分類学上の位置
 - 2) 結核菌の性状
2. 結核菌の感染と初感染原発巣
3. 結核免疫、ツベルクリン・アレルギー
4. 結核症の発病と進展
5. 結核病巣の形態学的治癒過程

II. 結核の診断

1. 病歴と症状
2. 結核菌検査
 - 1) 塗抹培養法
 - a) 検体採取法
 - b) 塗抹染色法
 - c) 分離培養法
 - 2) 抗酸菌同定法
 - 3) 核酸増幅法
 - 4) 薬剤感受性検査
3. 免疫学的検査
 - 1) ツベルクリン反応
 - 2) インターフェロン γ 遊離試験
4. 画像診断
 - 1) 胸部X線診断
 - 2) CT, MRI
5. 内視鏡検査と生検
6. 呼吸機能検査
7. 鑑別診断

III. 結核の治療

1. 化学療法
 - 1) 化学療法の一般方針
 - 2) 抗結核薬の種類および使用法
 - 3) 肺結核症の化学療法の進め方
 - a) 初回治療
 - ①標準的な化学療法
 - ②間欠療法
 - ③耐性菌感染例への対応と多剤耐性結核
 - ④化学療法の効果判定
 - ⑤治療期間
 - b) 再治療
 - c) 薬剤の副作用
 - ①主な抗結核薬の副作用
 - ②抗結核薬と併用薬剤との相互作用
 - ③減感作療法および薬剤の変更
2. 外科療法

3. 入院および退院の基準

- 1) 入院基準
- 2) 退院基準

4. 後遺症

5. 結核死亡の現状

IV. 全身の結核

1. 肺門リンパ節結核
2. 頸部リンパ節結核
3. 胸膜炎
4. 結核性膿胸
5. 喉頭結核, 咽頭結核, 気管・気管支結核
6. 粟粒結核
7. 結核性髄膜炎
8. 骨・関節結核
9. 腎・膀胱結核 (尿路結核)
10. 性器結核
11. 腸結核
12. その他の肺外結核

V. HIV関連結核

1. 合併頻度
2. 発症
3. 治療
4. 副作用
5. 予防投薬

VI. 結核の管理

1. 結核蔓延状況の推移
2. 結核対策
 - 1) BCG接種
 - 2) 潜在性結核感染症の治療
 - 3) 患者発見
 - 4) 接触者検診
 - 5) 結核集団感染
 - 6) 患者管理
3. 感染症法
4. 結核サーベイランス

VII. 非結核性抗酸菌症

1. 疫学
2. 菌種の同定
3. 診断
4. 病態と治療
 - 1) *M. avium* complex (MAC) 症
 - 2) *M. kansasii* 症
 - 3) 迅速発育菌による感染症